

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



初代の心にかえり信仰の喜びを  
深めよう 伝えよう 広げよう  
一、持ち場立場で日々理作り  
一、家族揃って教会参拝  
一、一日一件にをいがけ

立教173年  
12月号

# 世界平和はお道にかかっている！

まず国内のお互いが奮起を

海外伝道講習会

海外部は11月21日、大教会11月月次祭神殿講話として講師に永尾教昭先生(本部准員・海外部次長・ヨーロッパ・アフリカ課課長)を迎え海外伝道講習会を開催。海外に向った心の育てを培わせて頂くことと開かれたもの。講話要旨は次の通り。



体験を通し  
お話し下さる永尾先生

昨年3月末に、25年間居たパリから日本へ帰ってきました。当時はパリ出張所という名前でした

が、信者さんが増えて来たのでヨーロッパ出張所と名前が変わりました。現在ヨーロッパ・アフリカ課長という役を頂いておりますが、世界の約3分の2が私達の担当ということになります。今日は私なりに海外伝道について思うところを述べさせていただきます。パリに25年間住ませて頂いて、多くの方と出会い、話をさせて頂く中に、お道の教えがよく分かりました。おやさまの教えの素晴らしさがよく分かりました。

## ★天理教にしかない特徴

世界宗教の動きの中で「世界中の宗教同士のけんかをやめよう」と、最近よく「宗教の集い」というのが行われています。ヨーロッパで開催されることが特に多いのですが、昼間は建前の世界で、パネルディスカッションなどで話し合います。夜はバイキングでお酒も入り、お互い本音で話すことが出来るのです。私はいつも天理教の代表として参加してきましたが、いつもある宗派の代表の方が、私と馬が合い私に話しかけてこられるのです。ある日その方が、食事をしながら、「こうやって様々な宗教があるけれど、永尾さん、天理教にしかない特徴があるのはご存じですか？」と尋ねられたんです。皆さん何だか分かりますか？その方というには、「教祖さんが女性なのはあなた達だけ。私は中山みきの大ファンなのだ」と仰

せられる。

キリスト教、またイスラム教、仏教など世界宗教と言われる様な宗教は男性教祖です。教えも男性上位、言い換えれば女性蔑視という観念である。日本でも、宗教的行事のみこしは男性しか担げない、相撲はスポーツではなく、神事であり、土俵は神様が司る所だから女性をあげてはいけない、という決まり事があるからです。アジアを代表するヒンズー教は自分の父の葬儀でも、娘は参列できないとも言われます。

どうして世界の宗教は女性蔑視なのか。一つには、女性には生理があって、体の外に出る血は汚いという考え方があります。だからそういう作用を持っている女性が不浄。世界にはそういう考え方があつた。そんな世界に対しておやさまは、「女は不浄やと、世上で言うけれども、何も、不浄なことありやせん。男も女も、寸分違わぬ神の子や。女というものは、子を宿さなきゃならん、一つの骨折りがあつた。女の月のものはな、花やで。花がのうて実がのろうか。」と言われた。

ある宗派の代表の人が「あなた達天理教は、男も女もいっしょにおつとめをするやろう。こんな宗教は世界の中でもない。ものすごく珍しい。なんで世界平和がこないのか。よっぽど変な宗教以外、だいたい宗教は世界平和といっているが、平和は来ない。どうしてか。それは宗教界は男の

論理。男ばかりが話し合いをするからうまくいかない。なら、女だけならよいか。それもいけない。嫁姑の様な問題などがあるでしょう。男と女が一つになって話し合いをせんから世界平和が来ない。あなた達天理教だけだよ、祭儀を男女一緒にするのは「確かにかぐらづとめがあつてそれぞれのおつとめがある。今日のおつとめだって、男3人、女3人に男女の鳴り物を入れて、何ら不思議なくつとめられる。天理教の常識は、世界宗教界の非常識。世界の宗教界の常識は私たち天理教の非常識なのです。その方は、「これから世界が平和になるかどうかは、あなた達天理教にかかっている。」と言われ、私は良いことを聞かせて頂いたと思った。

おやさまは奈良から殆ど出たことがなく、ほとんど教育を受けておられませんが、おつとめをつくり、元の理を教えられた。いんねんの教理を説き、かしまのかりものを説かれた。これだけでも私は奇跡だと思う。また、かしまのかりものについては、あるフランス人に、このお話を説くと、「キリスト教も同じような教えがある。身体は神様からのギフトだと教えられる」と言いました。私はかしまのかりものとギフトとは全く違つたと反論した。私達は借りているから、その恩をお返ししようとする。それが例えばひのきしんであったり、教会でのおつくしとなる。少なくとも身体

をお借りしているお礼がある。私は根本的にこの労働感が天理教と西洋の人とは違つと思ひます。私たちのおやさまは、「働くことが喜び」と言われているのです。一方西洋では休日や聖なる日を教えるのです。キリスト教関係の人が沢山おぢばを訪れますが、回廊拭きをされている姿を見て意味が分からないんです。綺麗なのに掃除する必要がないじゃないか、と言われるんです。綺麗にすることが目的でなく、掃除することが目的なんです。だから、段々西洋では休みが増えています。休むことは聖なる事だと。そして生産性が落ちていき、消費税が上がっているのです。今ヨーロッパの消費税は平均23%です。フランスで19.6%。どんどん高くなります。

### ★おつとめは万国共通語

また今つとめたおつとめは本  
当にすばらしいと思うん  
です。ある日、ドイツ

のカトリックのミサに  
参加したことがあるん  
です。そのとき、ドイ  
ツ語で話されている話  
やミサがさっぱり分からな  
かったんです。先日別席のお取り次ぎをさせて  
貰ったんです。今有難いことにほとんど毎日と



言っているほど海外からの別席者がいます。あるとき、韓国の人が3人おられて、1人がメモを取り、1人がジュースを飲んでいたので注意しようとしたが、私は韓国語が分かりません。何とか分かって貰おうとしたとき、イエスチャーで伝えたんです。それはだめですよ、と。そうすると通じたんです。皆さんが海外へ行ったとき言葉が分からなくて、水が飲みたいときにイエスチャーをするでしょう。おてふりで「種を蒔く手」をすれば、世界中の人がここにかごがあつて、何か蒔いているんだなということがすぐに分かりますよ。「でんぢの手」をすると「ああ、畑仕事の手やなあ」と分かりますよ。おそらく世界共通です。私はおやさまが世界共通でわかる方法を考えたからイエスチャーしかない、と考えたと思います。だから教えをイエスチャーで説かれたんですよ。それは確かに共通でないこともあります。例えば「来い」の手の動き。日本では手のひらを下にしますが、欧米では手のひらを上に向けて手招きします。勿論多少の説明は要ると思ひます。しかし、これでないと思ひます。それが150年前にも、おやさまは教えて下さった。

### ★不思議なご守護

私は25年間、日々を喜び勇んで通つて来たかと

いうとそんなことはないんです。一番厳しかった事情が今から5年前の2005年の5月にありました。当時ある一通の手紙が税務署から届きました。内容はヨーロッパ出張所の税務調査を近いうちにするとということでした。2時間ほど全ての書類に目を通されて、問題もなかったようです。ところが一つだけ天理教本部から予算が送られてくることに目をつけられた。それぞれが別法人になるので「贈与税になります」と言われました。フランスは贈与税は4割を国に納めなければなりません。これでは、必要な予算しか頂いていないので、これから先維持していけなくなります。これは大変なことになったと、教会本部に相談したり、出張所でも弁護士に依頼しました。弁護士は「それでは裁判しましょう。絶対勝ちますよ」といいます。生まれて初めて裁判に関わりました。相手は国です。それから今後のこともあるので、「公益法人をとりなさい」といわれました。宗教法人的中でも国がなるほどと認めたものには「公益法人」とされる。そうすると完全無税、非課税になる。しかもお供えした人は金額の領収証で、税金控除される。それから役所にいたり、ジャーナリストに聞いた。一カ所だけそれを取っている日本の宗教団体があった。ある仏教の宗派で、聞くと取得に



約13年かかった。これでは私の代でこの土地をお返ししないといけないと思ひ寝れなくなった。辞表も書くと思った。そのとき、全てを神様にお任せしようと思ひを定めた。そしてもう十二下りしかないと思ひ、朝づとめ前の神殿掃除の1時間前に起きて毎朝十二下りをつとめた。1日も欠かさず引き上げるまで続けた。それを始めて数ヶ月経った時にこういうことが起こった。柔道が世界で一番人気があるのは日本ではなくフランス。柔道人口は60万人、子供達を含めると100万人を超える。しかもフランス人の柔道の憧れは天理柔道なんです。だから毎年沢山の柔道家が天理にやってくる。私は柔道に興味ないので、国際大会と呼ばれた。約一万人の観客が集まって居た中に、私と同席していた柔道家の栗津先生の弟子がいた。そのお弟子さんは元のフランス政府の高官だった。70歳くらいのその方に栗津先生が、現在私が抱えている問題を話し、後日会って相談した。「何とかしましょう」と言われ、2ヶ月後県庁から手紙が来て「天理教ヨーロッパ出張所、公益法人として認めます」。すぐにお礼申し上げた。そのとき、おやさまはご存命と思った。1万人の中で、その人にお会いできるなんて。その後裁判にも勝った。だから今出

張所へお供えすると、その分、控除対象になりません。どうぞ沢山お供えしてください。そういう不思議なご守護を頂いた。

### ★お道は素晴らしい

今現在、毎年、4・5・6月に英語修養科をしています。そこに昨年フランスから新婚夫婦が入ってきた。フランス語修養科がないので、仕方なく英語修養科に入った。奥さんは妊娠2ヶ月、問題は詰所での生活が日本語が全く分からない。食事は炊本で慣れない食事を我慢して通った。海外から飛行機代が安くても1人15、6万、修養科費も13万程度。そこまでして帰ってくる。主人は初めて天理教の話聞いて、修養科に来た。それも母国語でない英語で。観光も全くせず通った。今母国に帰って仕事をしながらお道の信仰を続けている。私達が今フランスに行くと、修養してみなさいと言われて行けますか？ 食事の違い、言葉も通じないのに。終了時、彼らの姿を見たとき、涙が出ました。

先日、日本語が話せないハワイの三世の会長が、皆さんが羨ましいと仰ってました。「みかぐらうたも、おふでさきも訳されている。しかしおさしづを私達は読めない。」とおっしゃいました。日本語でも意味不明な言葉がいっぱいある。海外部の部員で今一生懸命翻訳していますが、まだ少量

です。

2001年にニューヨークでテロ行為があつて、それに心を痛めたローマ法王が2002年1月に世界から12人の宗教の代表者呼んで「世界諸宗教の集い」というのをやりました。12の宗教の中に天理教がちゃんと入ったんですよ。あとはみな教科書に出てくるような宗教ばかり。キリスト、ユダヤ、ゾロアスター、仏教、儒教、アフリカの民族宗教、神道など。この中にバチカンが天理教を呼んだんです。どうしてバチカンが呼んだのか分からないが、おそらく、全宗教を勉強して、これはきっちりして、同じ祈りに値する宗教だと判断して選んだんだと思う。その時私は初めてローマ法王と話をしました。

今話してきましたように、海外の信者さん、教内者また、他の宗教を信じる人達がお道は素晴らしいと言っています。なのに、日本に居る天理教の人が少し元気がないんじゃないですか？ 今日の話をしたところで、多くの皆さんは、私は海外は遠いから又語学が出来ないから関係ないと思う人が多いと思います。海外布教をどう捉えるか。海外で布教と捉えると難しいでしょう。言葉や文化も熟知していないとできないと思うかもしれませんが、海外から日本に来た人に伝えようと思えばできますよ。

## ★天理を海外に広める

先日、海外から来た人達が天理に来て、玄関に入るのに靴をばらばらに脱いだ。それをおぢばの高校生達が揃えるのを見て、その人達は「おぢばではこういうことを教えるのか」と感動したそうです。私達の日々の積み重ねや、人に親切にしたり人のためにしている行為が将来必ず天理を海外に広めて行く力となるんです。海外に伸びれば、その力は必ず国内に及びます。私はそう信じています。

カンボジアではある布教所の日参に50人来る。又笠岡でもアフリカに道が繋がってますが、アフリカのある布教所では毎朝づとめに50人位人が来ます。又スペインにある布教所で毎朝スペイン人だけで5人の手が揃い、参拝者も2・3人集まる。そういった楽しい話海外にはいっぱいあります。

私達日本に住む我々が、おふでさきもみかぐらうたも日本語で歌え、真柱様の話もストリートに聞き、理解することが出来る。我々が今しっかりとお道を広げていかないと海外でされている人達に申し訳ないなあと思っています。お互い元気で励まして行きたいと思えます。有難うございました。

## 《以上要約》

## 上原元子様御結婚

大教会長様長女・元子様は去る十二月五日、吉川信一様(南紀大・紀春分教会長後継者・愛知県春日井市)と御本部教祖殿において、夫婦固めの御盃を戴かれ、めでたく御結婚されました。

## 布教部より

本年は、大教会創立120周年記念祭に向って、三年千日の2年目の実動の年として、2月26日・27日と教会長講習会を開催して「元気が出る教会」を目指して、中臺勘治先生を講師に迎え、楽しみに受講させて頂いた。ビデオ・講話・質疑応答を通して人だすけの強く熱い思いと、活動を聞かせて頂いた。長年、人だすけに種々心を尽し、ご苦労をしながら、実践を重ねる中に、立場・年齢の違う人々を、次々と住み込み人として教会に預かり、日々規則正しく、上級への日参・おつとめの勉強・にいがけ・ひのきしんと実行を通して、多くの人々を人だすけのよふぼくに育て上げられた。人を育てるには、教会に預かる事が一番確かな方法だと思ふ。しかし、毎日のお世話は並み大抵な事ではなく、実は大変だと思ふ。しかし、先生は「楽しみですよ」と言われる。苦勞を苦勞と思わず、先の楽しみですと言われた。通り切られた

人の一言、素晴らしいですね。育てる事の大切さは、自分が育った事の大切さを痛感する。中臺先生の教祖を思い、人だすけに心を尽し切る、真実を聞かせて頂き、大いに勇ませて頂いた。

その勢を持って、全教一斉ひのきしんデー・全教一斉にいがけデーにも、部員一心を合せ勇んでつとめさせて頂いた。更に別席ひのきしん団参・笠岡一手一つ大会の上にも、それぞれの立場立場を通して思召に添えるよう、全力を尽しました。本当にありがたい事に、賑やかに、盛大に、つとめられた事は、何よりもありがたく、よろこばせて頂きました。今年一年届かぬながらも行事、ご用に何とか無事につとめさせて頂きました事を、厚くお礼申し上げます。

来年はいよいよ、120周年記念祭を迎えますので、「先が楽しみ」を目指して頑張りたいと願っております。一年間ありがとうございました。

(布教部員一同より)

**海外部**

感想、反省など

海外部を持たせて頂いて数年が経ちました。今年には新しいことにも挑戦させて頂きました。3月に部員と共に広島平和公園でのおてふり、海外からの旅行者への英文パンフレットの配布。そして11月の月次祭に合わせて海外伝道講習会を開催させて頂いた。永尾教昭先生の海外経験豊富な話は、

多くの方に未知の知識を広めたようで嬉しく思いました。会食後の海外部員との懇親会は海外布教に関して質問が飛び交い、多くの勉強をさせて頂きました。また、将来の海外伝道者の育成でもある英語講習会は、とても実のある講習会になりました。来年もさらに携わる者達で談義を重ね、有意義な講習会になれるようにと思います。最後に海外部を通して活動させて頂いている発展途上国への衣料救援も、皆様の心寄せにより、昨年より約1・5倍多い物資が集まりました。輸送代寄付も含めて心からお礼申し上げます。今年3回目のタンザニア孤児院への輸送を12月中旬に教区国際助け合いネット岡山支局を通してさせて頂きました。今年1年、何かとご尽力頂きまして有難うございました。(海外部長 上原 志郎)

**青年会**

**ひのきしん団参実施**

11・28 40人参加

去る11月28日(日)、青年会笠岡分会では、恒例のひのきしん団参を行い、青年会員はもとより、家族ぐるみ教会ぐるみで、40人が参加しました。参加者は、まず詰所で風呂掃除や食器洗浄をした後、真東棟に移動し、付近の除草・清掃に汗を



心勇んで除草・清掃に汗を流した

ながしました。

ひのきしん後には、全員で今年一年の会活動に対するお礼のおつとめをつとめました。

当日おぢばは、団参が多く随所でひのきしんに励む姿も見られ、参加者は、秋の賑やかで和やかなひと時を過ごしました。

最後になりましたが、全ブロック参加で、無事につとめる事ができました事を、皆様にお礼申し上げます。来年は、『ひのきしん』をキーポイントとして活動を展開いたしますので、ますますのご協力よろしくお願いいたします。

(青年会笠岡分会委員長 上原 繁次)

## 人生の先輩から得たもの

神驛分教会 渡邊 靖敏やすし けい

私は天理大学で英語の勉強をしています。天理での生活も高校から含めて7年目となり、身も心も学生ではなく社会人としての自覚がでてくるようになりました。そんななか、私は11月28日に実施された青年会のひのきしんに参加しました。高校の時から変に天理教の行事と聞くと楽しくないイメージが強かったのですが、重ねて大教会の行事に参加する度に顔見知りが増え、そのおかげで



家族ぐるみで和やかにひのきしん

今回のひのきしんも自然と参加することができました。今回は別席場付近の草抜きでした。見たことある人も知らない人もいたのですが、全体的になごやかな雰囲気でした。ひのきしんができました。学生会とは違いお楽しみ行事等の要素はあまりありませんが、人生の先輩からの話しはとてもありがたかったです。来年私は就職でおちばを離れますが、もし時間の都合が合えばおちば帰りも含めて参加したいと思います。



笑顔いっぱい神殿前で記念撮影

## 修養科修了講習会

教養掛(谷内伸自主任)では11月27日から29日にかけて大教会で修養科第833期生修了講習会を行い6人が参加した。

中村剛布教部長講話をはじめ大教会史、おつとめ鳴り物練習、お墓地参拝、神殿掃除ひのきしんなどを行った。

今回から、職掌が布教部より教養掛に移管され、最終日の解散が午前10時となった。



鳴り物練習も真剣に

# 修養科終了生の声

## 修養科での生活を終えて

芦常分教会 吉川 暁子

この度、交際している彼からの勧めと、潰瘍性大腸炎の身上を頂いたため、心定めに修養科に志願させて頂きました。私は5年前に職場でにいがかかり、よふぼくになりましたが、天理教について分からないことが多く、不安もありました。しかし、3ヶ月の修養科生活を終えた今、想像以上に行ってよかったなあと思っています。詰所で共同生活することで、家族以外の人も思いやりをもって生活することができる自信ができました。朝夕のおつとめでは、日常に感謝し、少しでも不足の心を持たないよう心改ためることができました。朝早くからのひのきしんでは、健康な生活が身に付き、常に他者に目をむけて行動できるようになりました。また、修養科では経験豊富な先生方より今後の人生に役立つお話を聞かせて頂き、体調が悪い方がおられたら即座におさづけを取りつぐ姿を目にし、とても心温まる生活でした。修養科中に身上になられた方も、終了前には良くなった方がほとんどで、自分の体調も良く、やっぱりおぢばは凄いなと思いました。今後も修養科で学んだことを忘れずに、日々教えを実行していきたいと思えます。私をここまで導いて下さり、感謝しています。ありがとうございます。

## 躍進のつどい開催

11・23 高屋分

高屋分教会(武内正美会長)では、11月23日、講師に増田正義先生(典日分教会長)を迎え「高屋躍進のつどい」を開催、約330人が参加した。

大教会創立120周年の仕上げの年に向けて同教会につながるよふぼくが勇んでつとめさせて頂こうと開かれたもの。

武内会長が「まず高屋につながるよふぼく家庭が、真柱様の仰せ下さる神様を中心とした家族にならせて頂こう。大教会創立120周年に向け一歩でも前進させて頂こうと、この“つどい”を開いた。講話を聞いて“良かったね”ではなくて、一つでも実践出来ることを身につけさせて頂きましょう」と挨拶。

増田先生は「事情、身上は神様からの話しかけであり、それに対して教祖のひながたを通して答えを出す。答えは喜びがなければ親神様、教祖に受け取って頂けない。

陽気ぐらしは親心である。親心というものは親だけにしか使えないものではない。子どもが親に喜んで欲しいと思ったら、それも親心だ。その喜びこそが私たちの求めている陽気ぐらしだ」と自身の体験を通して「ものごとの見方、受け止め方」について話された。

この後、昼食を兼ねた模擬店、アトラクション、高屋分教会検定、福引きなどが行われ楽しいひと時を過ごすと共に、一層の躍進を胸に閉会した。



ものごとの見方、受け止め方について話される増田先生



# 里親雑想 ～ 全国大会に参加して ～

門司港分教会長 猪原 啓介

11月6日～7日の両日、おぢばで開催された全国里親大会に参加させて頂いた。

おぢば開催という事で申し込みは例年の倍。私は一般参加のつもりだったが、ひのきしん要請がかかったのでそちらに登録。後日、知人の委員さん経由で「記録掛」を仰せつかったが、記録用カメラを持っていない私は「笠岡」編集部のY先生に相談。Y先生からT先生の逸品をお借し、無事つとめを全うすることが出来た。

という流れからY先生からの原稿依頼を断れず、、、しばし拙文にお付き合いを。。

お道が福祉に携わって今年で100年。おぢばは今、関連行事で賑わっている。その節目に全国里親会が天理で開催された事は、教内には里親の認識を深め、教外にはひのきしん者の真摯な態度と行き届いた受け入れ体制を絶賛され、より深い信頼を得るという意味を持った。

現在、国内での里親登録者は約8千人。その3割の里親家庭に子供達が委託される中、お道の里親への依託はほぼ100パーセント。残る7割の里親さんへは依託の打診もない方もいる。

しかしそれは、一般の里親さんが子供達の抱えている「背景」に躊躇したり養子希望だったりするところにあるようで、どんな子でも受け入れ、実子と分け隔てない親心で接するお道の里親は、行政から見て「貴重な存在」らしい。

私達夫婦が登録して3年。登録当初「里親＝子育て」と単純に考えていた。けれど実際、依託された子供と向き合ってみて、そこには心的なケアが必要だった。

依託児童の大半は実親からの虐待・育児放棄等の辛い経験を持つ。

人は生まれてから1～2年の間に親からの愛情をしっかり受けることで人格の「ベース部分」が作られていく。その上に個々の性格や知識、社会規範などが身に付き、育っていく。

ところが、幼少期に親からもらう愛情が歪だと、ベースが作られないまま成長し、ベースが無いからその上に何を乗せてもひっくりかえってしまうという現象がおこる。

発達障害(アスペルガー、ADHD、多動、乖離など)は本来、先天性なものらしいが、近年は愛着関係を構築出来ない家庭から発生する後天的なものという認識も増えつつある。

里子の抱える心傷を「病症」と認識し、ある程度の知識を持って接する必要があるとともに、

今まで与えられなかった「愛情」を満たし、安定させ、心傷を癒していくことが里親の役割とすれば、親心をもって子供に接し、その子供のみならず、親のたすけも視野に入れてつとめるお道の里親が信頼されているのは、「世間の人々が理解しやすい形のおたすけ体制」ということなのだろう。先輩里親さんに言わせれば、「普通に教会生活をしているだけ」であるから。

先日おぢばで少年会発刊、「かみさまのおはなし」を買って帰り、夕づとめ後に読ませて頂くことにした。するとお預かりしている6年生の子が私に、「神様を



本

信じていない子に読んでかせるから学校に持っていったいい？」と聞いてきた。

この子がうちで生活を共にするようになって丸一年。子供の心に神様が映っていることを嬉しく思い、教会で里親をさせて頂く意味をかみしめるこの頃である。



式典

# 笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	婦 人 会	青 年 会	少 年 会	学 生 会 学生担当委員会
1	28 創立百周年 創立の日 各委員部 30 創立百周年委員部長の集	30 創立120周年 青年会 毎月ひのきしん		
2	3 委員・直轄委員部長研修会	20 毎月ひのきしん		21 学生層育成者講習会
3		20 毎月ひのきしん 28 春の学生おぢばがえり (モギ店)	21 育成講習会 (おとまり会に役立つ ゲーム・ソング) 30~1 鼓笛バンド講習会 1 おつとめまなび総会	3~9 学修 大学の部 28 春の学生おぢばがえり 後夜祭(モギ店) (直属アワー)
4	19 婦人会本部第93回総会	23・24 大教会ソフトボール大会 ひのきしん		
5	30 委員部長後継者講習会	29 毎月ひのきしん		8 おぢば管内の学生のつどい
6	4・5 こかん様に続く会	1~24 一ヶ月ひのきしん隊 19 毎月ひのきしん	21 縦の伝道講習会	
7	27 婦人会笠岡支部 創立百周年	17 毎月ひのきしん		
8		28 青年会・女子青年合同行事 28~4 全分会布教推進週間	22~24 キャンプ	9~15 学修 高校の部 22~24 キャンプ (少年会と共同開催)
9		18 毎月ひのきしん		
10		27 本部青年会総会 30 青年会員の集い		<b>輸 送 部</b> 1月25~27 春季大祭参拝 4月17~19 教祖ご誕生祭参拝 7月26~4 こどもおぢばがえり 10月25~27 秋季大祭参拝
11		27 毎月ひのきしん 30 大教会創立120周年記念祭 ひのきしん		
12				<b>教 養 掛</b> 修養科修了講習会 2月28日~3月1日 5月28日~ 29日 8月28日~ 29日 11月28日~ 29日
備 考	◎例会日(毎月3日) ◎直轄委員部長連絡会(21日) ◎ひまわり会(1日) ◎伏せ込みひのきしんの日(5日・15日) ◎女子青年神饌物洗い(毎月20日) ◎女子青年例会(随時)	◎大教会ひのきしん 毎月19日 午前9:00~	◎教会おとまり会の実施	

# 立教174年(平成23年/2011年)

部会 月	全体行事	ひのきしん	布教部	海外部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	11~20 直属ひのきしん特別隊(高屋) 25~27 春季大祭詰所受入		1月~6月の間に、部員による120周年記念祭 お誘いの訪問 ①アメリカ ②台湾 ③タンザニア ④国内のブラジル布教所用木
2	2~15 部内巡教 27 雅楽勉強会(初心者・初級) (予備日:3月6日)	16~28 本部食堂(東ブロック)	22 教会長夫妻講習会	
3	2~15 部内巡教			広島・訪日外国人への英文パンフレットでにをいかけ
4	24 大教会長杯 親善ソフトボール大会	11~20 直属ひのきしん特別隊(上府) 17~19 教祖ご誕生祭詰所受入	29 全教一斉ひのきしんデー	
5	4~18 直轄教会定期巡教	1~15 本部食堂(福山ブロック)		
6	27・28 雅楽奉仕者講習会 25・26 別席ひのきしん団参			
7		16~31 本部食堂(高屋ブロック)		
8	26~4 こどもおちばがえり	25~4 こどもおちばがえり詰所受入		6・7 英語講習会
9			1~30 布教推進強調月間 28~30 全教一斉にをいかけデー	
10	4~18 直轄教会秋季大祭参拝 22・23 雅楽奉仕者講習会	1~15 本部食堂(島根ブロック) 25~27 秋季大祭詰所受入		
11	<b>30 創立120周年 記念祭</b>			
12	20 心定め提出 22 年末大掃除	27 詰所餅搗		
備考	◎常詰会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後 1:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後 2:00 ●雅楽会練習 毎月次祭前日夕勤後 舞楽練習 随 時	註:ブロックの区分けは 東:岡山県以東の直轄教会とその部内教会 西:広島県以西の直轄教会とその部内教会 上府:上下、府中市	◎おかえり講話 1月25日、4月17日、 10月25日 いずれも午後 7:00	◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふぼく月報

◎役員並びに直轄教会長会議:毎月29日 午後2:00、2月は末日、4・7・9・12月は20日(直轄教会長の集いに替えて行なう)

# 教会おとまり会の報告

## ▼甲井隊

実施日	平成22年8月20日・21日
参加者数	少年会員13人 育成会員5人 合計18人
プログラム	20日 10:00 集 合。 12:00 昼 食。 13:00 地区行事参加。 15:00 支部ハートクリーン参加。 18:00 地区行事参加。 22:00 消 灯。 21日 7:00 起 床。 8:00 解 散。
所 感	<p>子供おちばがえりに参加した子供達ばかりでしたが、みんな、楽しくすごしていました。</p> <p>午後からは地区の夏祭に参加し、その後支部のハートクリーンにも参加しました。</p> <p>夕方のおつとめ練習や、鳴物練習もみんな積極的にやってくれ、夜のお楽しみ行事は、また地区の夏祭に参加しました。</p>

## ▼福勇隊

実施日	平成22年8月21日・22日
参加者数	少年会員8人 育成会員7人 合計15人
プログラム	21日 17:30 夕づとめ。 夕食準備。 19:00 夕 食。 後片付け。 20:00 花 火。 21:00 入 浴。 22:00 消 灯。 22日 6:00 起床・洗面。 6:15 朝づとめ。 6:30 ひのきしん(草取り)。 7:30 朝 食。 後片付け。 8:30 お 話 し。 おつとめ練習。 9:30 夏休み宿題。 10:30 おやつタイム。 11:00 解 散。
所 感	子供達みんな喜んでくれました。

## ▼出雲隊

実施日	平成22年8月21日・22日
参加者数	少年会員5人 育成会員3人 合計8人
プログラム	21日 15:00 開会式。 お下げ、神殿掃除の手伝いひのきしん。 おやつ、ゲーム。 17:30 夕食。 18:30 夕づとめ。 19:00 入浴、自由(宿題)。 22日 5:45 起床。 6:00 朝づとめ。 6:30 解散→小学校の奉仕作業へ。
所感	小学校の奉仕活動に合わせ、子供達から話が出て、つとめさせて頂きました。 人数少なくても、終始にぎやかに、楽しく過ごせました。 会長が用事でいない時でも、高校生の2人ががんばってくれて嬉しかった。

## ▼大恵山隊

実施日	平成22年8月23日
参加者数	少年会員3人 育成会員9人 合計12人
プログラム	23日 14:00 参拝、おつとめ練習。 14:15 お話。 14:30 全員でバーベキューの準備、 会食、レクリエーション。 20:00 解散。
所感	今年のおぢばがえりに育成会員として、参加協力してくれた高校生に御礼の気持ちを込めてバーベキューを実施。 来年度、子どもおぢば帰りに参加してくれそうな少年会員とその家族を含めて、楽しく一緒にバーベキューを実施した。 大変にぎやかで楽しい半日であった。ぜひ、来年、子供おぢば帰りに参加して欲しい。



### ▼島根隊

実施日 平成22年8月23日・24日  
 参加者数 少年会員13人 育成会員9人 合計22人

プログラム	23日	18:30	夕づとめ。	24日	6:00	朝づとめ。
		19:00	入浴。		6:30	朝食。
		19:30	夕食。		7:00	ひのきしん。
		20:00	ビデオ。		7:30	宿題。
		22:00	消灯。		9:00	遊び。
				12:00	昼食。	
				13:00	解散。	

所 感 おいやめいが、夏休みで帰ってきましたので、行事らしくなるようつとめさせて頂きました。もう少し涼しくなれば、KOGに参加した子に声をかけて、会を持たせて頂きます。

### ▼川島郷隊

実施日 平成22年11月27日・28日  
 参加者数 少年会員6人 育成会員12人 合計18人

プログラム	27日	18:30	集合
		19:00	夕づとめ、会長話、鳴り物練習
		20:00	夕食 カツカレー・サラダ&ヨーグルト
		20:30	自由時間：ゲーム大会
		22:00	消灯 寝袋で休む
	28日	5:30	起床、洗面、寝袋・布団等の片付け
		6:30	朝づとめ
		7:00	朝食
		7:30	ひのきしん：教会周辺の落ち葉拾い
		8:00	自由時間
		9:00	アメニティ体験ふれあいパーク：丸山公園へ出発 自然観察ウォークラリー、公園内清掃ひのきしん トン汁、フランクフルト&おにぎりの昼食
		12:30	解散

所 感 「キッズひのきしんクラブ」は毎月実施していますが、おとまり会がなかなか開催できませんでした。それがやっと実現できてとても嬉しかったです。特に「鳴り物練習」のために係員が早めに集まり、鳴り物の練習をしてくれたことがありがたかったです。丸山公園は風が強くてトン汁がなかなか温まりませんでしたが、寒かったので熱い食べ物がとてもおいしく何杯もお代わりしました。来年は、やはり夏に開催した方が良いと痛感しました。



# 十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ  
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護により 季節は長かった夏もようやく終わり やつと秋かと思う間もなくあつというまに冬へと移り替わりすっかり寒くなって冬本番を迎えておりますが その中でも松茸が豊作になったり等と秋の味覚をしっかりと味わわせて頂く事が出来ております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共はいつもと違う季節のうつろいとまどいなながらも 厳しさもやさしさも全て親心の現れと常に味わいの心を持って朝夕に御礼申し上げます その中にも今日の吉日はお許し頂いた御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをとめて十一月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達が 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げます ようと声高らかに お歌を唱和する状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本年の成人目標であります「家族揃って教会参拝」の総仕上げとして 過日笠岡一手一つ大会を開催させて頂きましたところ 千三百人余りの人が寄り集い盛大につとめさせて頂く事が出来ました これも皆の真実をお受け取り下さり御守護お導き下されたお陰と改めて御礼申し上げます 加えて来年の創立百二十周年に向けての成人の歩みをより確かなものへと進めさせて頂き 教祖百三十年祭に向けてより大きく成人する為の理作り足固めにさせて頂く所存でございます

又本日は 祭典に引き続き 海外伝道講習会を開催させて頂きます 海外伝道を目指す人が 弥増し 御教えが広く世界に広まるようつとめさせて頂く所存でございます

更には又 早いもので本年も残すところあと一月余りとなってまいりました 改めて年頭の心定めに思いを致し悔いの残らないようたすけ一条の御用の上に邁進させて頂く所存でございます

何卒親神様には 多様化し複雑化する時代にあって決して流されることなく 親一条にご恩報じに励む皆の誠実の心をお受け取り下さいまして 道の子のたすけ一条の御用を通して一人でも多くの人に親心が伝わり 一列兄弟の理に目覚めて共に助け合う陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお願い申し上げます

## 知事・日赤より表彰

住民自治功榮 輝美濃分会長

谷内伸  
自輝美濃  
分会長

は、11月11日、古田肇岐阜県知事より住民自治功勞による表彰を受けた(写真)。20年に亘る自治会長としての務めに対するもの。また11月4日には日本赤十字社より「金色有効賞」も受賞した。

平成2年4月、岐阜市本荘中村南第二自治会長に就任。同地区は東南海地震発生確率が高いことから、同12年から役所、日赤、消防、警察などの公的機関から講師を招き、毎年防災研修会を開き、防災意識の高揚と共に、県防災センターでの体験などを通し自治会による共助の大切さを訴えてきた。

自治会の目的は、防災、防犯、町内美化、親睦だが地域の住民の相談窓口にもなっている。平成17年には岐阜市長表彰・知事感謝状を受けている。

「自治会員の協力、役員の支えがあって務めさせて頂いている。地域の活動も、にをいがけ、おたすけにつながるひのきしんと思つて務めさせて頂きたい」と谷内会長は今後の抱負を話している。



# 大教会だより

## II 教会指令 II

### ◎任命願・神殿及び附属建物増改築願

笠 尋 分教会

\*前任 三嶋 利夫

\*新任 三嶋 正教



三嶋正教氏

☆奉告祭 立教173年12月5日

立教173年11月26日承認

## ◎第八三三期修養科

自 立教173年9月1日  
至 立教173年11月27日

### \*教 養 掛

三ヶ月間 吉岡 誠一郎  
(大教会准役員)

興明分教会長)

一ヶ月目 平盛 秀年  
(福昭分教会長)

二ヶ月目 桑本 光則  
(上吉野分教会長)

三ヶ月目 吉岡 孝彦  
(芦品分教会長)

### \*修了者

福芦 永戸 成人

## こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌十二月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「声」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていきましたので転載させて頂きます。おめでとございます。

地位 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子さん

一声が奇跡となりし神の縁

### ▼表紙の絵

神辺分教会 よふぼく 小坂道利さん

多古浦	余村	弘
甲井	山田	敏教
久松	中村	麻夜子
福岩	本多	彩乃
芦常	吉川	暁子

### ※お詫びと訂正

本年11月21日発行の『かさおか 第49巻 第11号』「笠岡一手一つ大会 おつとめ役割表」で「坐りづとめ・てをどり」の名前に誤字がありましたので、お詫びと訂正をさせて頂きます。

「誤」頼軽萌 — 「正」頼経萌



私のお預りしている教会にある家庭がある。教会草創の頃からの信仰で、曾祖父が出直される数年前までは、4世代同居家庭であった。神様はお祀りしていたが、これまで宅神祭はされていなかった。

平成13年大教会創立110周年の年に

宅神祭をさせて頂くことにした。

以前から拍子木だけはあった。2人の孫たちの誕生日のプレゼントにと、数取りとチャンポンを贈った。

祖母の号令のもと(おばあちゃん)が目を決め全員に召集をかける。絶対的なのだ)宅神祭は必ず家族全員が揃ってつとめる。当時、小学校1年の長女と4歳の長男は、数取りとチャンポンを取り合っていた。

時は経ち、高校生と中学生になった2人はさすがに取り合いはしないものの、現在も相変わらずつとめてくれている。

家族揃って教会参拝 — 大教会の

本年の実践項目である。家族揃ってということとは容易ではない。それぞれの都合はあろうが決められた日に合わせるということ。祖母の力は大きな力である。そして家族も素直である。

神様はこの家庭に、これまでいろんな事情、身上はあったが大難は小難に、また大きなご守護を数多く下さっていることは言うまでもない。

(あ)